

令和4年度市町村保健事業担当者研修会開催レポート

開催日 令和4年5月16日（月）10時～12時 Zoomによるオンライン開催

今年度の研修会は、埼玉県国民健康保険団体連合会のご協力により、初のオンライン開催となりました。高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施をテーマに、県国保医療課と国保連合会と共催で開催したところ、県内63市町村の他、県保健所等から申し込みがあり、216人の職員が参加しました。

○講演 『高齢者の通いの場におけるポピュレーションアプローチの展開 ～医療専門職が関わる意義とまちづくりの視点から～』



※イメージです。

講演では、浜松医科大学医学部医学科教授の尾島俊之先生に、講演を行っていただきました。

高齢者の社会参加の重要性と行政が担う役割など、まちづくりの視点も交えながらお話をいただき、保健（保険）部門だけでなく、介護部門から参加された方も興味を持って聞いていただけたのではないかと思います。また、地域診断や事業評価など、医療専門職の方々が事業を進めるうえで悩みの多い部分の説明では、今後の参考になることも多かったのではないのでしょうか。

今回の講演をきっかけとして、庁内の連携がより進むことを期待します。

○説明

後半は、広域連合から一体的実施の概要、国保連合会から KDB システムの活用について説明を行いました。

時間の都合で詳しい説明ができなかったので、疑問点についてはいつでもお問い合わせください。特に今年度以降一体的実施に取り組む市町村の方は、事業の進め方や KDB の操作で悩むことも少なくないと思います。些細なことでも構いませんので、いつでもご相談ください。

一体的実施は、地域の高齢者の介護予防・健康づくりのための制度です。広域連合では、市町村や県国保医療課、国保連合会とも連携し、一体的実施を推進してまいります。

参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

- ・ 予防と共生のため、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの両方の取組が必要なことがよく理解できた。
- ・ 一体的実施が高齢者の QOL の維持向上につながるということがよく理解できた。
- ・ 通いの場などの社会参加が健康リスクや要介護認定リスク等と関連することが大変興味深かった。
- ・ 統計などで全体的な状況と方向性の理解ができた。市民への説明に活用したい。
- ・ 一体的実施の推進のために、関係部署との連携や、共通認識が大切だと感じた。他部署の職員と一緒に研修に参加し、連携の第一歩になった。
- ・ 介護予防の視点をまちづくりに生かすには、福祉部門以外との連携も必要。事例などをもっと聞いてみたい。